

海技協会報2025.4
VOL.

155

マリーン・ プロフェッショナル

Japan Marine Construction
Engineering Association



CONTENTS

VOL. 155

海技協会報

ページ
01 巻頭言

～巻頭言～

一般社団法人 日本海上起重技術協会理事 四国支部長
大旺新洋株式会社 常勤顧問 尾崎 憲祐

～山内一豊の浦戸入城と明治維新へ～

大旺新洋株式会社 土木事業本部 管理部長 緒方 義孝

03 協会活動

令和7年度講習試験等のお知らせ

04 会員寄稿「会員の広場」中部支部

トラスって何ですか？

青木建設株式会社 常務取締役 星合 信行

07 会員作業船紹介 北陸支部

10m³級・210 t 吊

クラブ浚渫船兼起重機船「第七番神」

株式会社植木組

11 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ 近畿支部

寄神建設株式会社 不動 忠幸

12 マリーンニュース「事務局だより」

- ・ 四国地方整備局と意見交換会を開催
- ・ 本部活動等

13 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」

巻 頭 言

一般社団法人 日本海上起重技術協会理事 四国支部長
大旺新洋株式会社 常勤顧問

尾崎 憲祐



皆様におかれましては、益々ご健勝のことと思われま

冒頭に、私事で恐縮ですが、今年の総会をもって理事を引くこととなりました。

平成29年5月の総会で就任以来8年にわたり、微力ながら理事を務めさせていただきました。

在任期間中は多くの皆様と交流をして頂き、学びを得ることができましたことに感謝申し上げます。

皆様の益々のご発展を御祈願申し上げ、後任につきましても引き続きのご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

～山内一豊の浦戸入城と明治維新へ～

大旺新洋株式会社 土木事業本部 管理部長

緒方 義孝

さて、今回は当支部支部長多忙につき、私が代わって支部所在地の四国高知にまつわるはなしを紹介させていただきます。



長宗我部元親 像

関ヶ原の戦い（慶長5年、1600年）で、西軍につき敗れた土佐国の長宗我部盛親は帰国も許されないまま改易された。追放された長宗我部家の後継として土佐一国を与えられたのは山内一豊であった。

同年、徳川家康は井伊直政の家臣を上使として土佐国に派遣し当時の本拠地であった浦戸城を接収しようとしたが、長宗我部氏の家臣竹内惣右衛門を中心とする一領具足は浦戸城の引き渡しを拒否し、盛親に旧領の一部を与えることを要求し、上使の宿所であった雪蹊寺を1万7千人で包囲し浦戸一揆を起こした。

これに激怒した家康は四国諸大名に土佐への派兵を命じた。一豊も弟の康豊を鎮圧に派遣。

遺臣団側は浦戸城に籠城して50日間ほど抵抗したが重臣級の「年寄方」と一領具足級の「家中方」の間で意見の対立が生じ、これをきっかけに一部の重臣が策謀を

もって一揆軍を場外に締め出し、12月1日に動揺した一揆軍を浦戸場外で破った。場内の裏切りにより開城、降伏した。273人の一領具足が斬首され、その結果、12月5日に浦戸城の接収作業は完了し、翌慶長6年1月8日に新城主の山内一豊が浦戸城に入城した。

一豊は、土佐入国に先立ち「五か条の掟」を発し、土佐接収の際の略奪を死罪に処する旨を令し厳禁した。また、先発した弟康豊は庄屋を介して入国を告げ、山中に逃げ込んだ土民の住居復帰を勧め、国政は長宗我部の旧に依ると布告し、繰り返し宣撫に務めながら一豊の入国を待っていた。

土佐へは、藩主や一族を除く侍分は総勢167人（召し抱えられた場所別、掛川80人、長浜62人、播州15人、尾州2人、山城1人、不明5人）。

この内、譜代の臣といえるのは、尾州で召し抱えた五島内蔵助と祖父江治郎兵衛の2名のみであった。

一豊は、慶長5年12月末大阪出船後、慶長6年1月2日甲浦の港へ上陸。その後、浦戸一揆が収束してないこともあり、具足を着け緊張したまさに戦備行軍の構えで、野根山を越え奈半利、6日安芸、7日赤岡、1月8日に浦戸城へ入城した。

最後の行程、種崎から浦戸への湾狭を渡るには船でなければならない。それには旧長宗我部の水軍を動かさなければならず、先発していた弟康豊の工作のおかげか何とか浦戸、種崎、御豊瀬の船頭と庄屋の協力が得られ浦戸城へ入城できたのであった。

この時の対岸の種崎浜で船を待つ一団の胸中は、対岸の浦戸城を眺めながら、様々な歴史の返還を経て、ようやくこの地へたどり着いたという想いと、いよいよこれから新しい人生の出発の地へ来たという感慨は一入であったと思われる。また、この少ない武士団で強い土佐を治めなければならないという緊張感もあったであろう。

その後、その日直ちに船に乗り近海を巡視し、更に18日には長浜の若宮八幡宮で乗り初め式を行い、逃避した領内人民を諭してその本居に還住させるなど、進駐軍として繰り返し宣撫工作をする傍ら、慶長



坂本龍馬 像

6年3月1日には「叛党」の大弾圧が行われた。この日、この日城下桂浜で入城祝いの相撲大会が行われ土地柄沢山の土民が集まり、その場であらかじめブラックリストにある叛党73人を捕らえ対岸の種崎の浜辺で磔刑に処せられた。用心して来なかった岡豊村の庄屋には追手を派遣し現地で磔刑にされた。

この後、一領具足による大規模な反乱は後を絶った。

温厚実直と思われがちな山内一豊は表面上は長宗我部時代の政策を尊重を掲げつつ、実際には旧長宗我部家臣（郷土）に対する厳しい差別と弾圧を行い、土佐藩の基礎を築いていくこととなる。

土佐藩では、郷土は藩士と厳密に区分されたため、江戸時代を通じて上下対立の原因となり、こうした厳しい対立が維新の志士を土佐藩が多く生む土壌となったのではと思われる。

令和7年度 講習試験等のお知らせ

令和7年度の講習試験等を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

[1] 登録海上起重基幹技能者

開催地	開催日	会場
東京	令和7年10月23日(木)～10月24日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
福岡	令和7年10月30日(木)～10月31日(金)	福岡商工会議所(福岡県福岡市博多区博多駅2-9-28)

※受講申請書受付期間：5月7日(水)～6月20日(金)

[2] 海上起重作業管理技士

開催地	開催日	会場
東京	令和7年10月3日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
大阪	令和7年10月10日(金)	大阪科学技術センター(大阪市西区鞆本町1-8-4)

※受講申請書受付期間：5月7日(水)～6月20日(金)

[3] 更新講習会

登録海上起重基幹技能者、海上起重作業管理技士

開催地	開催日	会場
東京	令和7年9月5日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
神戸	令和7年9月12日(金)	神戸市産業振興センター(神戸市中央区東川崎町1-8-4)
福岡	令和7年9月26日(金)	福岡商工会議所(福岡市博多区博多駅前2-9-28)
オンライン	令和7年10月1日(木)～10月26日(日)	協会ホームページ オンライン講習サイト

※受講申請書受付期間：5月7日(水)～6月20日(金)

[4] その他

- (1) 講習試験等の応募要領は、協会ホームページに掲載します。
- (2) 不明な点があれば、協会まで問い合わせして下さい。

トラスって何ですか？

青木建設株式会社 常務取締役 星合 信行

はじめに

縁あって静岡県東部地域局からの誘いに乗って夏休みの「地域のお仕事発見！小学生職場体験講座」に3年連続で参加しております。初年度は手探りで、小学生の夏休みの宿題に代わるものだと聞いていたので理科の要素を入れて、当社の100tクローラークレーンで20tテトラを吊り、空中での重量と水中での重量を比較して浮力を実感してもらおうと企画しました。が、参加者してくれたのが小学6年生と小学4年生で4年生には早いけど6年生なら解ってくれると思いました。が、よく考えると浮力は中学で習うものかと……。解りやすく説明はしましたが、多分解って貰えなかったんだろうなというのが率直な感想で、付き添いで来ていただいたお母さん方も余り興味を示して戴けなかったようでした。ただ20t（重さの説明は大きい車15台分とした）を軽々と持ち上げるクローラークレーンが凄いと

いう感想だけで何とも寂しい自己満足失敗となってしまいました。



この反省を生かして2年目（令和5年）は子供が喜びそうなものにしようとドローンによる現場空中見学としました。現場は熱海の土石流で発生した土砂50,000 m³を埋め立てた多賀地区で行われている護岸工事を見てもらおう事とし、幸いドローンの資格講習を行っている会社の社長と知り合いでしたのでメインで飛ばすドローンと子供たちに体験させるトイドローンを用意してもらいました。更に、現場での動きがあった方が良いと思い当社の100tクローラークレーンで2tの根固めブロックを当日据え付けることにしました。





実施した7月30日は梅雨あけ後の猛暑が予想されたので、現場事務所の休憩所にモニターを設置しドローンの映像をクーラーの効いた部屋で見てもらいました。参加者は小学5年生と3年生の3人で保護者を含めて6人となりました。空からの映像はなかなか迫力があり2tの根固めブロック800個が整然と据え付けられている様子には保護者の方から「どうやったらこんなに綺麗に据え付けられるのか?」との質問もありました。我々としては当たり前の事ですが一般の方にとっては凄いことで、この辺がアピールポイントなんだと気付かされました。最後にトイドローンの子供たちに飛ばしてもらい体験講座は終了しました。5年度は少し

は満足してもらえたと思います。

さて、令和6年も是非実施して貰いたいと静岡県東部地域局から連絡があり、ネタが見つからないのでどうしたものかと悩んでいましたが、5月に新船125t吊り全旋回式浚渫兼起重機船「青雲号」が完成していたのでこの新船の出来るまでの工程ビデオと内部見学を体験講座とすることにしました。

キャッチコピーはウケ狙いで「約7億円の最新鋭125t吊り全旋回式浚渫兼起重機船を見に行こう!」としました。業界人にとっては7億円では少ない方ですが一般ウケを狙いました。キャッチコピーが多少ウケたのか4家族で小学生1年生から6年生まで6人が参加してくれました。事前に参加する保護者のお母さんから「トラスを説明してほしい。」と要望があり、そんな専門用語を知っているお母さんはどうゆう人なんだろうと興味がわきました。今回も梅雨明けの7月30日に設定しましたので、熱中症対策と事故対策を万全にして迎え入れ、冒頭トラスを説明してほしいと言ったお母さんに経緯を伺ったところ、「以前体験講座に行ったところでトラスという言葉が出て詳しく知りたいと思った」とのことで、トラスの語源や説明を素人向けに行





い、ついでにラーメン構造についても簡単に説明し、質問をしたお母さんには理解して頂きました。子供さんには多分トラスなんてどうでもよいことで夏休みの宿題の1つが短時間で終わることの方が意義あることと思いますが、保護者の方には業界の用語や内情を少しでも理解してもらってお子様将来建設業に就い

てくれればという思いでした。ついでに「7億円は借入していません、全て自己資金です。青木建設は優良企業でお子様就職するときには是非、青木建設をご検討ください。」と当社のアピールをしておきました。その後船内を見学し、無事に体験講座を終えることができました。

最後に

今回小学生体験講座で思ったことは、保護者の方（特にお母さん）に業界の事を理解してもらう事が将来お子さんがこの業界に就職する1つの要素と成り得ると言うことでした。今後もこの体験講座を通じて保護者の方に業界を少しでも理解して頂き将来の担い手を確保していきたいと考えている今日この頃です。



10m³級・210 t 吊 グラブ浚渫船兼起重機船「第七番神」

株式会社植木組



写真-1 「第七番神」全景

1. はじめに

作業船の主な稼働対象は、その多くが公共事業であり、その内容も時代とともに変化してきた。

近年、特に施工精度・環境基準・労働環境については、今まで以上の変革が求められている。今後も海上作業に携わる者としては、これらをクリアして前進することが企業の存続につながると考えられる。

「第七番神」は国内既存船の中では中規模な作業船ではあるが、搭載装備においてはこれらの変革課題をクリアできるように設計されており、運用する乗組員についても装備の習得・教育がされている。

また令和6年1月1日に発生した「令和6年能登

半島地震」においては珠洲市飯田港にて啓開作業を行った。これらのことに関して以下に記述する。

2. 主要諸元

2-1 浚渫仕様

・直巻能力		50 t
・グラブバケット	硬土盤用	3.5m ³ /35 t
	中硬土盤用	10.0m ³ /32 t
	普通土盤用	12.0m ³ /30 t
・浚渫深度(水面下最大)		40 m
・施工管理システム(3D 対応)		古野電気

会員作業船紹介

2-2 起重機仕様

- ・主巻最大定格総荷重 210 t× 9.0 m
- ・補巻最大定格総荷重 31 t× 33.9 m

2-3 砕岩仕様

- ・35 t (ディスクブレーキ・自動停止装置付)

2-4 クレーン部主要仕様

- ・ジブ長さ 22.0 ~ 37.0 m

2-5 船体部寸法・タンク容量

- ・長さ×幅×高さ 50.0 m× 21.0m × 4.0m
 - ・燃料タンク A 重油 / 軽油 45/45m³
 - ・清水タンク 飲料水 / バラスト 170 t / 350 t
- ※清水については、1回/年の水質検査を実施。
バラストタンクも清水仕様とし、非常時には風呂・シャワー等に使用可能。

3. 本船の特徴

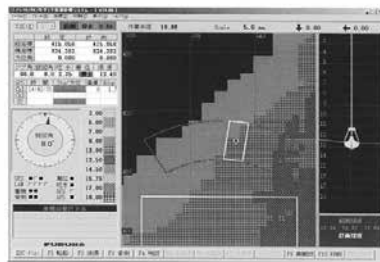
3-1 最新の施工管理システム

施工管理システム (ソナー) については、当社は1992年建造のクラブ浚渫船から全国でいち早く取り入れており、システムの運用技術と共に「施工性」の向上を図ってきた。

今回建造した「第七番神」においては、最新のICT施工を可能にした施工管理システムを導入し、施工データの3次元モデル化を可能にした。



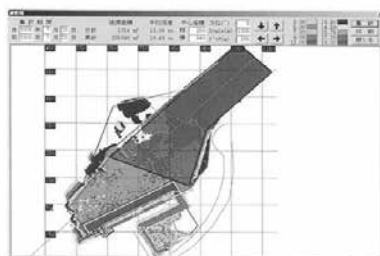
■事前測量データ重畳表示



■CADデータ重畳表示



■進捗図表示



■鳥瞰図表示

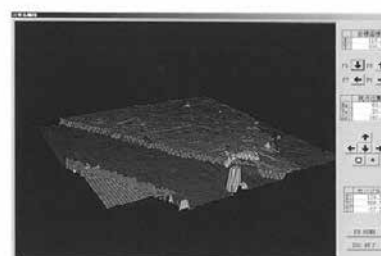


写真-2 施工管理システム (3D表示可能)

3-2 電力設備

造船所との検討を重ねた結果、電力設備となる発電機を3台搭載し、燃料には軽油を使用。作業状態・用途に応じた使い分けをすることで、効率良く船内に電力を供給できるように設計した。

また補・停泊用発電機を船首へ配置することにより、停泊時の居住区（船尾）の静音も確保することができた。



写真-3 発電装置（主発電機）



写真-4 発電装置（補・停泊用発電機）

3-3 居住設備

船内生活を基本とする海上作業においては、乗組員の生活環境の充実も大切となる。このため、可能な範囲で居住スペースを充実させることで、

居住性の一層の向上を図り、魅力ある職場として「働き方改革」を含めて、若手乗組員の意欲向上や新規採用に繋げている。

※各居室には、ベッド・冷蔵庫・テレビ・机・エアコンを配備。



写真-5 船員室（食堂）、乗組員居室

3-4 公共性の充実

2007年7月に経験した新潟県中越沖地震では、保有クラブ浚渫船の食糧・飲料水・シャワー等を民間に提供し、公的救援が開始されるまでの間、臨時救援施設として運用した実績を持つ。

第七番神の建造において、特にこの点は重視したポイントであり、本船を避難船と想定し、船内に一時避難所を整備、公的救援を待つ間の生活必需品を配備している。

作業船はその大半が飲料水・食料・電力を船内に保有しており、ライフラインを自己完結できる装備を備えている。いざという時に支援行動を素早くとれるような備えを平素から進めることも、作業船の使命かと考える。

4. 能登半島地震による珠州市飯田港での啓開作業

震災発生時、第7番神は七尾港に係留しており、公的救援の体制が整うまで地域住民向けに作業船の居住設備や船内に備蓄してある食糧・生活備品の提供を行った。その後飯田港での啓開作業を1月から5月の間に行い、漁船や漁具、プレジャーボート・倒壊したブロック等を撤去した。

会員作業船紹介

4-1 施工管理システムの活用

港全体が地震と津波の影響で大きく損傷していたため港外からのうねりが入り、海中の濁りにより潜水士の視界が悪く、撤去対象物を視認できない状況であった。そのため実施済みの UAV グリーンレーザー測量やマルチビーム深淺測量の結果から撤去対象物の位置座標を把握し、第7番神の施工管理システムにそのデータを反映させることで、撤去対象物にピンポイントで作業船のセットが可能になり、潜水士への的確な誘導を行うことができた。



写真-8 防波堤ブロック吊上げ状況

4-2 漁船・防波堤ブロック等吊上げ作業

漁船吊上げ時には玉掛用具にスリングベルトを使用し船体になるべく損傷が起きないように注意を払い作業を行った。



写真-7 漁船吊上げ状況

津波で破壊された防波堤のブロックの撤去は玉掛が困難であったため、潜水作業によるコア抜きを行い、削孔した穴に吊り具を通し作業を行った。

吊上げ対象物は他にも漁具・ブロック片等様々あり、重量も 0.1 t～70.0 t まで多様であったが、ジブにフックインされている 30 t フック、80 t クレーンフック、また搭載していたバケットを状況により使い分けることで対応した。

4-3 現地での宿泊について

当時現地では作業員の宿泊場所の確保が難しく、ライフラインが整っている場所から珠洲市まで片道 2～3 時間かかる状況であった。本作業においては船内に宿泊しながら作業を行った。先に説明した船内の発電・居住設備により必要な生活環境を確保することができた。

5. おわりに

今回の珠洲市飯田港での啓開作業では、第7番神の機能・設備を活用して作業を行うことができました。復旧に向けて僅かながら支援をさせていただきました。今回の作業が能登地域の復興に向けての一助になれば幸いです。また、御協力いただいた関係各社や地域住民の皆様にご心より感謝申し上げます。

われわれの仕事は、インフラ施設を建設して終わりではなく、その後を見据え地域と共に歩み、豊かな生活を形作ることにあります。SDGs の目標でもある、常に地域住民の立場に軸足を置き、安心・安全で住み続けられるまちづくりに貢献して参ります。

近畿支部

寄神建設株式会社

不 動 忠 幸



プロフィール

- 出身地 神戸
- 生年月日 昭和45年3月20日
- 職 責 船団長
- 船 団 起重機船「新建隆」(1,400t吊)
曳船「第18神海丸」(4,000PS)

●経歴(資格取得)

- 平成元年 4月 入社
- 平成18年10月 海上起重作業管理技士 取得
- 平成20年11月 登録海上起重基幹技能者 取得
- 平成28年10月 起重機船 新建隆 船団長就任

●主要工事

- ・令和5年度 横浜港新本牧地区(-18m)(耐震) 築造工事
- ・令和5年度 清水港新興津岸壁(-15m)本体工事
- ・令和2年度 駿河海岸藤守離岸堤工事

●今後について

起重機船の仕事として主に護岸の築造工事や鋼殻ケーソンの積込み・水切り作業、また、造船所などのジブクレーンの新規据付、古いクレーンの撤去作業を行っています。

様々な制約の中で安全を確保するために、コミュニケーションを重視し、工事の事前準備や本作業の手順について、甲板長をはじめとする乗組員みんなで話し合い、意見を交わします。

乗組員の高齢化が進み若手社員が少なく人材確保に苦しい中ではありますが、我々の“魅力があり働き甲斐のある仕事”を次の担い手に継承していきたいと思っています。



マリーンニュース 事務局だより

本部活動

◇第109回 理事会を開催

令和7年3月24日(月)、東京都千代田区「都市センターホテル」において第109回理事会が開催され、各議案とも事務局提案どおり承されました。

報告事項① 令和6年度事業報告の件

報告事項② 令和6年度収支決算（見込）の件

第1号議案 令和7年度事業計画の件

第2号議案 令和7年度収支予算の件

第3号議案 その他議案について

1. 令和7年度通常総会（第39回）開催に関する件
2. その他

令和7年1月23日

◇広報・事務担当者会議

1. 本部活動
2. 支部活動
3. 広報活動
4. その他

令和7年2月3日

◇常任委員会幹事会

1. 第109回理事会提出議案について
2. その他報告事項

令和7年3月3日

◇常任委員会

1. 第109回理事会提出議案について
2. その他

四国支部

◇四国地方整備局と意見交換会を開催

令和7年2月13日(木)に四国地方整備局との意見交換会を高松市リーガホテルゼスト高松にて開催しました。

四国地方整備局からは、森次長、池町港湾空港部長、鳥井総括調整官はじめ管内全所長含め19名もの幹部職員にご出席をいただき、また、協会本部からは寄神会長、菅沼常任委員長、富田専務理事、久保地技術委員にご臨席いただき、四国支部からは尾崎支部長以下17名が出席しました。

四国地方整備局からは、池町部長より要望書に対する懸案事項である土捨場の確保の検討状況はじめ丁寧、また、熱く回答を頂きました。

その後の自由討議では、多くの会員から意見が出され、予定の時間を超過してしまうほどの活発な意見交換ができました。

場所を変えての懇談会では「しげもとまもる事務所」の本地本事務局次長も合流され、大いに懇親を深めました。



●お知らせコーナー●

「非自航船における居住設備ガイドライン」について

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就労環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員へにはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出てください。



「ポスター」

インフォメーション

海技協 販売図書案内

図書名	概要	体裁	発行年月	販売価格
作業船団の運航に伴う 環境保全対策マニュアル (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する方策を取りまとめたマニュアル 海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A4版 100ページ	平成30年4月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)
作業船団安全運航指針 (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針 労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A5版 200ページ	令和2年6月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入した FAX 又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号: 03-5640-9303

E-mail: honbu@kaigikyo.jp

マリン・プロフェッショナル
海技協会報2025.4 VOL.155

禁無断転載

発行日 令和7年4月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

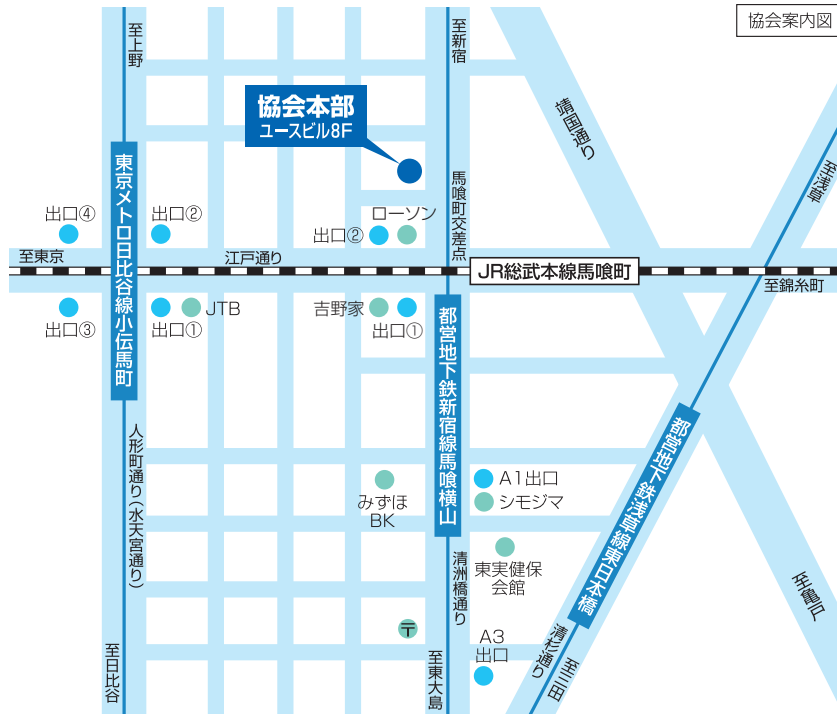
ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア

一般社団法人 **日本海上起重技術協会**



本部	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03(5640)2941 FAX 03(5640)9303 URL https://www.kaigikyo.jp/ E-mail honbu@kaigikyo.jp
北海道支部	〒065-0019 札幌市東区北19条東7丁目2-10 藤建設(株)札幌支店内 TEL 011-721-9800
東北支部	〒030-0821 青森市勝田2-23-12 (株)細川産業内 TEL 017(723)1451
関東支部	〒104-0044 東京都中央区明石町13-1 (株)古川組内 TEL 03(3541)3601
北陸支部	〒951-8650 新潟市中央区西湊町通三ノ町3300-3 (株)本間組内 TEL 025(229)8473
中部支部	〒413-0011 熱海市田原本町9-1 青木建設(株)内 TEL 0557(82)4181
近畿支部	〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町2-1-1 寄神建設(株)内 TEL 078(681)3126
中国支部	〒737-0822 呉市築地町4-40 大新土木(株)内 TEL 0823(21)1470
四国支部	〒781-0112 高知市仁井田1625-2 大旺新洋(株)内 TEL 088(847)2112
九州支部	〒808-0021 北九州市若松区響町3-1-33 (株)白海内 TEL 093-751-0350
沖縄支部	〒905-0014 名護市港2-6-5 (株)屋部土建 浦添本社内 TEL 098(879)7704